

**7月7日「クールアース・デー」  
党青年局が提案、推進。  
7万施設（6月25日現在）が参加表明**

**七夕**の夜に全国でライトを消して天の川を見よう——と訴える「クールアース・デー」への取り組みは、地球温暖化対策が主要なテーマとなる北海道洞爺湖サミット（主要国首脳会議）の初日に当たる7月7日を、全世界で地球温暖化問題への理解を深める日にしようとの党青年局の提案がきっかけ。6月9日には、6万8433人の署名簿を福田康夫首相に提出。首相は、「大変結構な提案。すぐに採用させていただきたい」と述べ、同日の記者会見で「7月7日をクールアース・デーとし、一斉消灯運動のみならず、毎年さまざまな取り組みを行う日にしたい」と発表しました。これを受け、環境省のライトダウンキャンペーンをはじめ、経済産業省、国土交通省では業界団体へ呼び掛けを行い、文部科学省では全国の学校へ通知するなど、国を挙げての取り組みとなっています。

**サミットへ向け、  
「地球温暖化対策に関する提言」を発表  
日本の温暖化対策を公明がリード**

**日本**がサミットでの議論を主導するには、自らが率先してCO<sub>2</sub>排出削減に取り組む姿勢を明確に示す必要があります。公明党は今回の提言で、わが国の温室効果ガス削減の長期目標として「2050年に80%削減」を、また中期目標として「2020年に25%削減」を掲げるよう強く要請。とりわけ中期目標の考え方については、“ポスト京都”の議論を進展させるためにも、「サミットに先立って表明すること」を政府に求めました。

**公明党**の提言を受けて、6月9日に示された政府の新指針は、削減の長期目標を「現状より60～80%削減する」と明示、中期目標についても、2005年を基準として「2020年に14%削減が可能」とする見通しを示し、来年中に日本の中期目標となる「国別総量目標」を発表する方針を明らかにしました。

7月7日はクールアース・デー

# 公明党が進める 地球温暖化対策

環境問題は政治のリーダーシップが最も必要な分野です。公明党は、「環境の党」「生命を守る党」として、地球温暖化防止対策を全力で推進してまいります。皆さんの力強いご支援をどうぞ宜しくお願い致します。

